

「まちづくりカルタをつくろう」の まちづくり教育としての有効性に関する研究

○ 室崎 生子 (平安女学院短大)

1. 目的 本研究は「京都・学生まちづくりコンクール」に参加した時の子どもたちのまち遊びの事例を紹介するとともに、それに取り組んだ短大生にどのようにまちづくり教育として効果があったかを、学生の意識、行動から明らかにすることである。

2. 方法 取り組みの全過程を記録し、発言・行動を教員の目から観察し、最後に学生たちによる感想文を提出してもらうことで、短大生の変化をとらえた。

3. 結果 まちづくり交流部門への参加を決めてからは、どんな内容にするかを含めて学生たちが主体的に取り組むことをゼミ活動とした。内容は地域の人の支援をえて、地域の子供たちを対象に、一日、町歩きをして、カルタを作って、あとそれで遊ぶというものになった。約10ヵ月、実質6ヵ月間の取り組みを通じて学生たちは、確実に成長したといえる。過程を整理するにあたっては、主催者である京都市景観・まちづくりセンターと協力母体である住民組織とのやり取り関係のなかで、学生たちの意識の変化をみていった。学生たちの意識の変化は次のような段階として捉えられた。Ⅰ. 軽い気持ちの参加動機、Ⅱ. 自覚の芽生え、Ⅲ. 企画決定までのあせり、Ⅳ. 責任感の高まり、Ⅴ. 成功への不安、Ⅵ. 本番での安心と満足、Ⅶ. 纏め作業の苦勞、Ⅷ. 達成感である。また、学生たちの体験内容は、当事者体験、仕事体験、社会的仕事体験、コミュニティ体験、集団活動体験、子どものケア体験に整理できる。学生にとって、この体験はまちづくりへの関心を高めただけでなく、主体者としての自覚を育て、住民の支援をえるなかでコミュニティとは何かを感じる体験が出来た点で有効であったといえる。